

## 明治維新以降の体育史についての研究

### A study on the history of physical education after the Meiji restoration in Japan

1K06B248

指導教員 主査 石井昌幸先生

若林 久人

副査 寒川恒夫先生

#### はじめに

日本における学校体育の内容や目標は、国の方針により度々改定されてきた。この改定は、日本が歩んできた歴史的背景に大きく影響を受けており、特に戦前と戦後における学校体育には、大きな違いがみられる。本研究では、学校体育の基礎が形作られた明治維新以降の体育の歴史について取り上げ、その時期の社会背景と学校体育にどのような関係性がみられるのかを調査する。また、戦前と戦後の学校体育について、様々な角度から比較をおこない、これからの学校体育の課題を見出していく。

#### 第1章

第1章では、明治維新から第二次世界大戦までの体育史の変遷を取り上げ、学校体育が、その時期の社会背景にどう影響を受けてきたかを述べる。

1868年明治維新直後の日本では、現在のような法令に基づくまたは設備の整った学校教育は行われておらず、そのような学校教育が行われ始めたのは、日本で最初の教育法令である学制が公布された1872年からである。この時期には、体育という名称ではなく、体術として小学校の教科として示された。これが学校体育のはじまりといえる。この時期の日本の風潮として、欧米の文化を摂取しようとする傾向が強まっており、その思想は、学校体育にも及び、欧米の体育を手本に授業が行われていた。その後教育に関する法令が公布され、近代教育制度は徐々に確立していったが、戦争を背景に軍事色の強い体育が行われていた。

#### 第2章

第2章では、戦前の軍事主義的な体育を改め、民主主義的な体育が行われた戦後の教育理念の転換が、戦後に行われた政策や社会背景とどのような関係であったかを述べる。

戦前、強い日本を創るため欧米に負けじと体力の向上を目指した軍事色の強い学校体育は、戦後になると、影を潜めた。戦後の学校体育は、戦前の身体の鍛錬を目標とする体育とは異なり、運動の技能を高めること、運動やスポーツそのものの楽しさを味わうことなどを目標とする体育であった。このような民主主義的教育理念は、アメリカの影響を大きく受けたものであった。

#### 第3章

第3章では、戦前と戦後の体育を指導内容や指導方法などから比較し、その時期の学習内容が学習目標に沿ったものであったかを検討する。戦前においては軍事色の強い体育が行われ、戦後においては民主主義的な体育が行われていたが、実際の授業ではどのような内容を取り扱い、どのような指導方法を用いていたのか。特に戦後における体育の目標は、社会背景の変化とともに変わっていった。昭和30年代には、技術主義体育論が、40年代には、体力主義体育論が主流になり、50年代以降は、楽しい体育を目指すようになった。このような社会背景と共に変化する目標を達成するための授業が展開されてきたのか。制度と現状を照らし合わせて取り上げる。

#### おわりに

明治維新から現在までの体育史を、歴史的背

景と照らし合わせ理解する。過去の問題点などを理解することで、これからのよりよい学校体育を見出していくことができる。現在の社会の変化はすさまじく、その変化に対応する必要がある、現在は、新たな教育の分岐点である。将来のよりよい学校体育とは、どのようなものなのか。